

2026 北海道中学校体育連盟競技大会参加要項（心得）

【 大会・試合運営に関すること 】

- 1 試合場には監督・外部指導者・地域クラブ活動の指導者・選手が入場し、選手席には選手・監督以外は入らない。
- 2 団体戦は、審判側から先鋒・次鋒・中堅…の順に整列する。その時、先鋒と次鋒は、面と小手をつけ、竹刀を持って整列する。
- 3 正面への礼は、第一試合及び決勝戦（当日の最終試合）のみとし、他の試合は、相互の礼のみとする。また、掛け声などは禁止する。
- 4 団体戦では、先鋒戦と大将戦は監督・選手ともに選手席で正座し観戦する。
- 5 選手交代の際は、円陣を組んでの発声やパフォーマンス・胴づき、握手をしない。
- 6 試合中の応援は拍手のみとし、監督、選手のサインや声援は禁止する。
- 7 試合場への時計類の持ち込みは禁止する。（腕時計等は身に付けない）
- 8 監督は、試合の開始と終了の立礼を選手席で選手と同時に行う。
- 9 監督の服装は、正装とし（白Yシャツ、黒・紺・グレー等のズボン・スカート）とし、紺または白色の靴下とする。
- 10 竹刀をおいての練習場所取りを行わない。譲り合うようにする。
- 11 競技会場への校旗、応援旗等の掲示はしない。
- 12 監督席で選手の指導を行わない。

【 大会規則に関すること 】

- 1 竹刀には、テープ等を一切巻かない安全なものを使用する。また、中結の位置は、剣先から全長の約1/4とする。
- 2 竹刀の「つば」は、所定の位置に固定すること。また、色は皮色とすること。
- 3 竹刀の「つる」の色は、華美でないものとする。
- 4 面ひもは、結び目より40cmとする。
- 5 小手ひもは、長く垂らさない。
- 6 胴ひもは、蝶結びとする。
- 7 竹刀の「つる」が回った状態の時は、一度指導をし、次から有効打突としない。
- 8 突き技は、禁止として反則とすることもある。（技としては反則とする）
- 9 上段の構えはとらせない。隻腕についてはその都度協議する。
- 10 二刀は、使用させない。
- 11 片手打ちは、有効打突としない。
- 12 審判の合議の時、試合者は立ったまま竹刀を納め、区画線の内側で「そんきょ」して待機する。合議終了後は開始線にもどり、立ったまま構える。
- 13 団体戦において参加申し込み以降にけが・病気などにより出場できない選手・補員が生じた場合には、その選手・補員の登録を抹消し、新たな補員を登録することができる。この場合は、監督会議の席上で許可を得る。また、補員の起用は、交代選手の位置とし、交代者の再出場は認めない。
- 14 カーボン竹刀の使用を認める。
- 15 サポーター等（足袋、テーピング、コルセットを含む）の使用について
 - ①医療上必要と認められた場合に限り使用を認める。使用する場合は、届け出用紙に記入の上、届け出た上使用する。
 - ②サポーターなどは、肘・膝などにつけるものを足につけたり、ゴムや革及び滑り止めを底に貼ったものの使用は禁止する。
 - ③指先単独でのテーピングは、届け出は不要とする。
 - ④届け出と違うものを使用した場合は、替えさせる。
- 16 選手位置（オーダー）の変更を認めない。
- 17 試合者の「目印」は全長70cm、幅5cmの赤及び白の2色とし、各学校・地域クラブで用意する。
前垂れに学校名・地域クラブ名と選手名を明記した名札をつける。※ワッペン（他団体）は付けてはならない
- 18 公正を害する行為「変形な構え等の防御姿勢」をとった場合は、1回目は「合議」の上、「指導」、2回目以降は「合議」の上、反則とする。
- 19 面金を黒塗りした面など、通常の配色でない面の使用を禁止する。ただし、日常の稽古や試合練習での使用については特に制限を設けない。
- 20 華美への配慮
 - ①校名・校章等の刺繍（剣道着・袴）は、大きさ、色を含めて華美にならないように配慮する。
 - ②面乳革は、大きさ、色、模様を含めて華美にならないように配慮し、色は黒色または紺色とする。
 - ③柄革は、滑り止め（ゴム等）や刺繍等のない無地のもので、白色とする。
※ただし、日常の稽古や練習試合での使用については、その限りではない。
※柄革の上端（折り返しの部分）の色・模様については、特に制限を設けない。
※滑り止め（ゴム等）のついた柄革の使用を禁止する。